

令和元年度第2回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日時 令和元年7月25日(木)13:00～14:30

2 場所 市民交流プラザふくちやま 会議室3-2、3-3

3 出席者

| | |
|-------------|---|
| 委員 | 青山委員長、大久保委員長職務代理、菊田委員、中井委員、細見委員 |
| 福知山市 | 渡辺室長、岸本課長、井上係長、倉主事 |
| 福知山公立 大学 | 井口学長、富野副学長、山本事務局長、竹友事務局次長、 内田グループマネージャー、矢野 |

4 会議概要

| | 議題・報告事項 | 内容 |
|---|---------------------------------------|---|
| 1 | 【議題】 平成30年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価について | 事務局から【資料1、2】により業務実績評価の進め方等を説明。 |
| 2 | 意見交換・質疑等 | <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大学としての強み・弱みを示して、弱みをどのように克服していくかのメリハリをつける必要がある。例えば、年度計画を立てるときに年度で力を入れたいことを焦点化していただきたい。 ■ 努力はされていると思うが、市民が期待している三たん地域の入学者もしくは就職者について、大学として努力をした結果等を報告書に盛り込まれたら分かりやすかったと感じる。 ■ 今年度の業務実績報告書は、昨年と比べると見やすくなり、再掲の数も少なくなった。しかし、後ろのページにいくにつれて再掲が多くなっているため、改善の余地がある。 ■ 大学の活動を評価するとき、新しい動きはどれくらいあったのかが重要である。本年度は、まちかどキャンパスを作ったり、情報学部を設置する等、毎年何か新しい動きが出てくると大 |

| | | |
|--|--|--|
| | | <p>学が動いていることを実感できるので、今年の新しい動き・ポイントは何かを前面に出して自分たちの実績を大きくアピールしていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全国の高校・予備校計5000校にFAXを送るというのはこれだけで大変な時間を要するが、例えば普通科の高校に絞り、そして偏差値がつかないFランク等の高校を除けば福知山公立大学が対象とする高校の数を絞ることができる。そうすることで、業務量が減り、より有効な取り組みに時間を使うことができるので、厳しい状況下での取り組み方として参考にさせていただけたらと思う。 |
|--|--|--|

5 次第

- (1) 開会挨拶 青山委員長
- (2) 事務局挨拶 渡辺市長公室長
- (3) 事務局説明

【資料1、2】により業務実績評価の進め方を説明。

(青山委員長)

委員の皆さんには、業務実績評価を行う上で感じたことや、注目した点などを教えていただきたい。

(委員)

- 事業を進めていくと年々、中期計画から離れた年度計画になってしまうため、中期計画期間が終われば、中期計画に対する評価を受けることを意識していただきたい。
- 大項目別評価で「教育の質の向上」に関わる部分と「業務運営」のところに同じ実績が載るのはおかしいと思うので、着眼点・指標は何かを意識していただきたい。
- 年度計画を立てる時に、例えば「委員会を立ち上げる」としたら「できたか」、「できなかったのか」などシンプルに評価できて、それが中期計画に基づいて実施しているかどうかに着目して評価をした。
- 質問事項については、よく分かる回答をいただいたので、不勉強なところがあれば法人から説明いただき、適切な評価をしていきたい。
- 大学としての強み・弱みを示して、弱みをどのように克服していくかのメリハリをつける必要がある。例えば、年度計画を立てるときに年度で力を入れたいことを焦点化していただきたい。

(委員)

- 過去 2 年の業務実績報告書より今年の方が断然読みやすい。中期計画・年度計画に対してどのように実施されたのかが非常に分かりやすかった。
- 中期目標、それを達成するための中期計画と年度計画、その結果の実施状況がどのように関わっているか、その成果が現れているかの関連性を重点的に見た。
- 市民にとって、福知山公立大学には不安と期待の両方がある。
- この地域の入学生がたくさん入ることや外部から来た学生がたくさん福知山市に就職すること、財務面は大丈夫なのか。この 2 点が市民の視点だと考える。
- 努力はされていると思うが、市民が期待している三たん地域の入学者もしくは就職者について、大学として努力をした結果等を報告書に盛り込まれたら分かりやすかったと感じる。

(委員)

- 自身の心がけとしては、業務運営の継続的な見直し・改善を促すことが使命だと思っている。その上で評価基準に基づいて、評価をしていくのが基本的な考えである。
- 大学は厳しい状況からスタートして、教育や運営も改善の連続で、限られたスタッフの中でよく運営していると思う。
- 大学自体の改善に関わる業務計画については、シンプルに「できたか」、「できていなかったか」で評価できるものもある。
- 一方、改善活動の計画については、定量的・定性的なものが望ましいが有効性・妥当性で評価をした。
- 質問についてはよく答えていただき、評価書も見やすくなっているので、努力されていることが分かる。

(委員)

- 各先生の努力が報告書の中で見えてきている。
- 地域協働・キャリア支援・生活に関する部分を注目して見た。
- 大学全体の方向性として、創成期の中では社会の評価が大きく影響してくるのではないか。
- 学生目線から言うともう少し改善していただきたい箇所があった。
- 1、2 年ではなく 3、4 年そして社会での評価を見据えながら改善をしていただきたい。

(委員)

- 今年度の業務実績報告書は、昨年と比べると見やすくなり、再掲の数も少なくなった。しかし、後ろのページにいくにつれて再掲が多くなっているため、改善の余地がある。
- 年度計画の中身が少し抽象的な内容があり、具体的な内容を示していただけると、市民にとっては見やすく大学が何をしようとしているか分かりやすくなる。それに従い、再掲が少なくなる。
- 地域内の学生の入学も望ましいが、地域外から学生が入学することも全国に福知山公立大学を知ってもらうという意味があり、その学生たちが福知山市に残らなかったとしても全国に福知山公立大学のネットワークができる重要性は大きい。

- 今後、卒業生を送り出す中で地域外から来た学生達を地域としてどのように活用していきけるかを大学運営の中で考えていただきたい。
- 一方で、地域の学生が行く大学という意味づけも必要なので、報告書の中で高校への説明会など頑張っていることが分かるが、地域内外の人たちがマッチしてもっとユニークな大学になっていくと面白い。
- 大学の一番の特色は地域との連携であり、実績でも地域の講演会やワークショップを実施している動きが出てきており、学生も参加できている。
- 地域を知らながら、分析しながら学生達が外の世界に出て行く1つの手段を学んでいることが重要。
- 地域協働・地域連携の中で先生は、外に出て行く状況はあるが、学生の参加が難しい状況がある。
- 学生がどのような役割を果たしたのか、どのような学修をしたのかということについて評価をした。
- 三たん地域のことを学ぶことは、地域外から来た学生にとっては大事なことでありと考えている。
- 大学の活動を評価するときに、新しい動きはどれくらいあったのかが重要である。本年度は、まちかどキャンパスを作ったり、情報学部を設置する等、毎年何か新しい動きが出てくると大学が動いていることを実感できるので、今年の新しい動き・ポイントは何かを前面に出して自分たちの実績を大きくアピールしていただきたい。

(4) 議題：平成30年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価について
福知山公立大学ヒアリング（⇒は大学回答）

(青山委員長)

ただいまから福知山公立大学へのヒアリングを開始する。

(委員)

小項目19 質問番号17

- 教務系システムの導入が年度計画だったが、実績を見ると導入されていなかったの
で、質問したが、結果的にはシステムは導入されていないという理解でいいか。
⇒このシステムは全部で15のサブシステムがあり、3月中に出来上がり、4月から
使用開始したのが8システムである。4月以降に使用開始したのは新たに4シ
ステム、今後は3システムが使用開始予定である。

小項目71 質問番号37

- 施設や整備の点検をして、整備計画を策定することが書いてあったが、実績は新学
部を開設するための改修設計を終えたと記載されているが、整備計画自体は作成に
至っていないのか。
⇒将来計画の中の整備計画をどの範囲で捉えるかの記載が不十分であったように思
う。年度計画の整備計画は、新しい学部を作り、定員200名を受け入れる計画

を作成して、新学部が使用する建物の改修設計を終えるという計画であり、それを達成したので評価を「3」とした。質問一覧及び回答書に記載した4号館の空調設備・エレベーターの更新については公立大学化した時からの課題であったが、市と協議しながら準備を進めてきている。しかし、2学部200名体制となった時の食堂や体育館などの体系的な整備計画まではできていない。

小項目100

質問番号48

- 中期目標には、「施設設備の整備・管理に関する目標と計画を策定し、実施する」とあり、年度計画では、「実査等を行い、資産を適切に把握、管理する」とあるが、実施された内容は施設設備の整備・管理に関する目標と計画を策定するために今年度実施したという理解で良かったか。
⇒今年の年度計画については、資産の適切な管理とあったので、その実績を記入した。整備に関する目標については、他の項目に記載があったのでこの項目での年度計画には記載しなかった。
- 施設のことをいくつか質問しているのは、何年のスパンで修繕をしていく、新設する学部のためにどのような施設が必要など長期計画をある程度作っていただきたいためである。市の財政も考慮して、これからどのくらいの費用が必要になるか、それを把握した上で優先順位をつけていくことが必要だと考える。

(委員)

小項目19

- 教学情報システムについて、15のサブシステムの中で8システムが年度内に導入が完了して、7つが導入できずに次年度に持ち越しとなっているということだが、2018年の当初段階では、年度内に導入するということを計画されていた。
- システムの導入は、大学運営に寄与して、様々な計画の実行に関係していると思う。
- 途中で時間や予算など様々な困難が発生しても、決めたものをやり遂げることは改善の基本でもある。
- どのような事情があって教学系システムが導入できなかったのかを教えてください。
⇒当初は、2018年度に契約を締結し、後期から教務関係システムを導入する予定で動いていた。しかし、本学の職員体制上、教務システムを導入する準備が整っていなかったため、導入時期を2019年4月に変更した。
なお、15のシステムのうち8システムは4月に使用開始し、残りのシステムは順次稼働予定である。

(委員)

- 遅れたのは担当者が忙しかったからか。
⇒年度計画策定時にシステム導入にかかる業務量や所要期間の見通しが十分精査できていなかったためである。

(委員)

小項目 2 2 質問番号 1 9

- 年度計画では、学生に対するアルバイト情報を充実させるということ、学生係がアルバイトに関する相談窓口になると書いてあるが、業務実績報告書と質問一覧及び回答書では周知し、学生にそれらを認識させるとは書いていないように思うが、結局は周知されたのか。
⇒ガイダンスを通じて、周知はしているが、委員のおっしゃるとおり業務実績報告書や回答書には記載されていない。

(委員)

- 実業界では、計画をする場合には日付を設定し、それに向けて計画を進めるということが基本である。
- 今までの話を聞くとマンパワーの問題や当初の段階で業務量などが読めなかったという問題があったと思うが、計画を立てるときに業者と綿密に打ち合わせをすることが重要である。
- 来年度に情報学部が立ち上げるにも関わらず、システムが立ち上がっていないのは心許ない。

小項目 2 2 質問番号 1 8

- 「導入する予定である」ではなく、具体的に何年何月に導入すると回答いただきたいかったのが本心である。

小項目 5 5

- 肯定的な意見と改善を求める意見があり、これらの意見を計画の中に書いていただくようお願いしたい。

(委員)

小項目 1 4

- 志願者が何人集まったか、地域性がどうだったのかを評価すべきではあるが、学校訪問の回数などが年度計画の数値よりはるかに上回っていると評価できたが、なぜ「3」と控えめな評価だったのか。
⇒大学として、書いたことよりはるかに上回っているとは思っていないということと北近畿地域からの学生の確保にはまだまだ課題があり、そのことに対して踏み込めていないので「3」としている。

小項目 2 4、2 6

- 私学時代に入学した4年生全員が内定を得て、3年生も含めて全員面談をされるなど尽力しているの見受けられるが、なぜ評価を「3」としているかを教えていただきたい。
⇒評価を抑えているつもりはなく、30人の卒業生で就職希望はさらに限られてくるため、その学生たちの就職支援はできて当たり前と考えている。さらに全員との面談も人数が少なかったから実施できた。来年度は人数が倍となり、今後2学部200名体制となると今の取り組み方では対応できないため、抜本的に取り組み方法を

変える必要があると考えている。

⇒評価の方法として、アウトプットとアウトカムを両方意識している。回数や実施について委員がおっしゃるとおり、頑張っていると思うが、具体的に地元入学者などのアウトカムについては達成できていないと感じている。

- 例えば、業務実績報告時に「就職率は100%達成できたが、課題が残っている」と書いていただくなどアウトプットとアウトカムの記載まで踏み込んだら業務実績報告の理解が深まるものとなる。

(委員)

小項目40

- 年度計画では、地域の団体等による大学施設の利用を図るとあるが、利用状況を見る限りはとても多く利用されている。しかし年度計画には、具体的な数値が記載されていないので、評価が難しいが様々な団体が様々な形で使用しているのを見ると結構頑張っているように思うが、どうか。
⇒平成31年度の年度計画では数値目標を定めたので、次回はそれに基づいて評価をする。平成30年度は数値目標をあげていなかったことと各担当の意識として特別多く利用してもらっている印象がないため、「3」と評価した。

(委員)

小項目14

- 全国の高校・予備校計5000校にFAXを送るとするのはこれだけで大変な時間を要するが、例えば普通科の高校に絞る、そして偏差値がつかないFランク等の高校を除けば福知山公立大学が対象とする高校の数を絞ることができる。そうすることで、業務量が減り、より有効な取り組みに時間を使うことができるので、厳しい状況下での取り組み方として参考にしていただけたらと思う。
⇒訪問や直接の接触については、絞っていたが指摘いただいた点は重要な視点なので参考にしたい。

(委員)

- 教務系システムが納期に入らなかったことや来年度以降のキャリア指導のマンパワーの問題や先ほどの業務効率化の話を踏まえると、恐らく時間外勤務が多くなっているのではないかと予想される。さらに新学部を設置することでルーティン業務の数倍の負荷がかかると予想される。設置団体に話をするべきであるが、運営費交付金の措置やプロパー職員・派遣職員の増員等を検討いただきたい。

(委員)

- 全国の公立大学の半数以上では、職員のプロパー化を進めている。プロパー職員は、大学業務に熟知したプロフェッショナルとして、仕事の効率化などを図ることができるため、設置団体と協議して、検討いただきたい。

(青山委員長)

本日のヒアリング内容を踏まえて、評価委員会において評価書原案を7月29日(月)に作成し、7月30日(火)に法人に提示する。法人からの評価書原案への意見書は書面により8月6日(火)までに提出いただくものとする。

6 その他
特になし

7 閉会

以上